

# 第1回 県立高等学校改革懇談会 『大沼・坂下』

日時：令和元年 7月18日（木）13:45～15:15

場所：大沼高等学校 会議室

## 福島県教育委員会

# 本日の内容

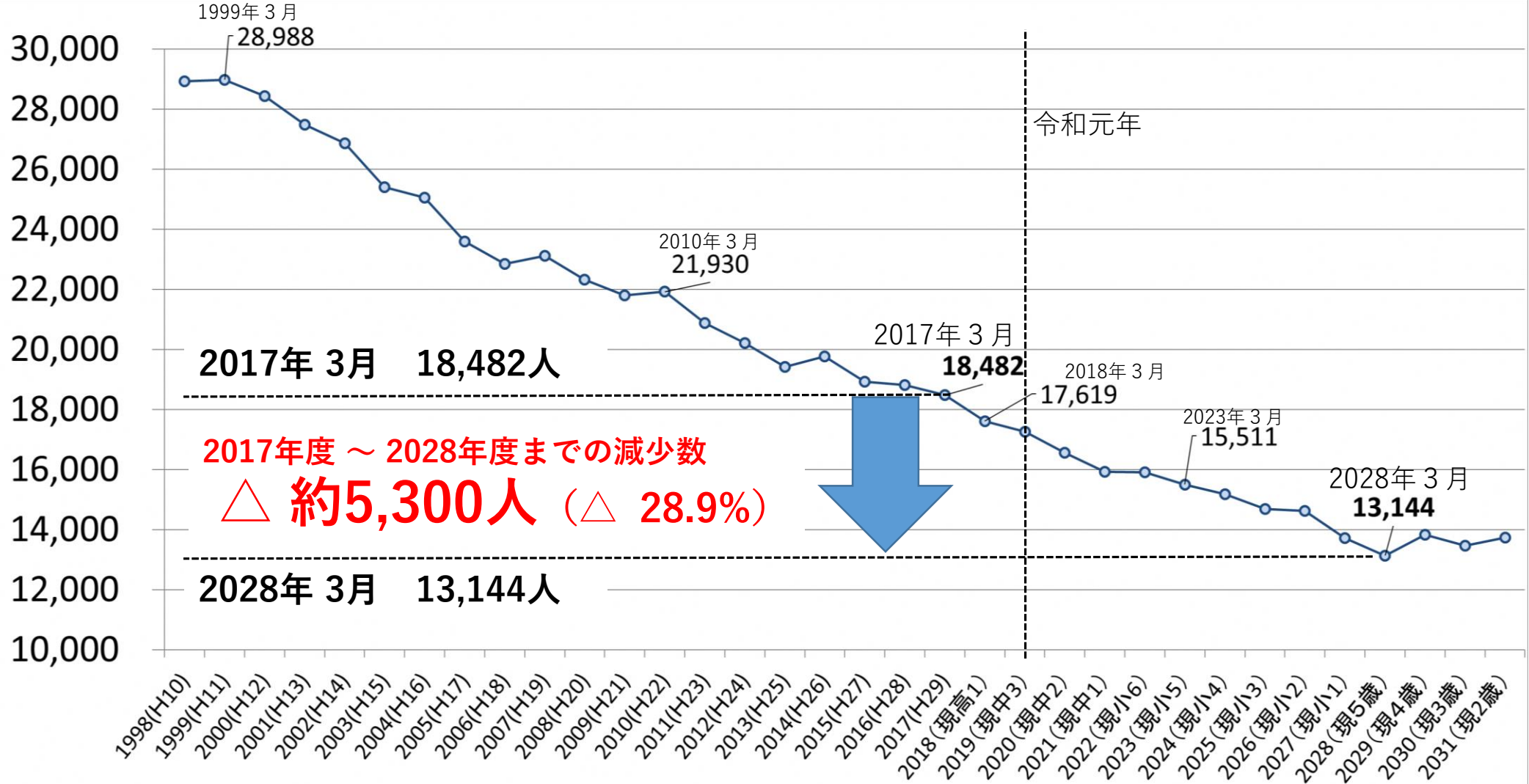
I	県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯
II	大沼高校・坂下高校の現在の状況
III	今後の再編整備について

I

# 県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯

# 少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

中学校卒業（見込）者数の推移（人）

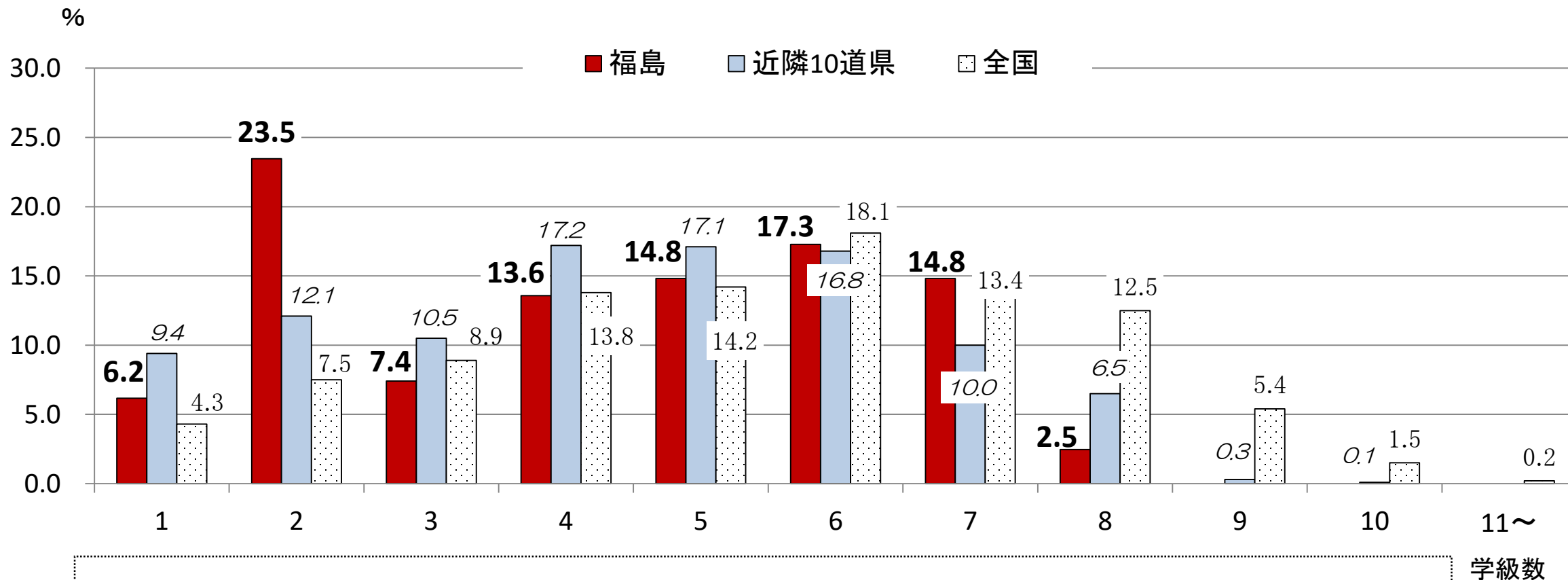


出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。  
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。  
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

（年3月卒業）

# 県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。  
分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣  
10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

# 本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

## 本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行** (中学校卒業予定者が10年間で約5,300名減少)
- 過疎化・高齡化 (地域コミュニティの維持が課題)
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化 (例:主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入)
- 高等学校の小規模化 (3学級規模以下の高校の増加)
- 生徒の**学習ニーズの多様化** (学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化)
- **東日本大震災と原子力災害からの復興・再生**  
(本県の復興に携わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進)



高等学校改革の必要性

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度) 答申  
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年 5月  
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (2019年度～2023年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (2024年度～2028年度) 5年間

# 県立高等学校改革の基本方針

## 基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

## 【4つの基本方針】

**基本方針 1** 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む  
高等学校教育の推進

**基本方針 2** 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

**基本方針 3** 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

**基本方針 4** 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の  
向上



## 再編整備・魅力化の基本的な考え方①

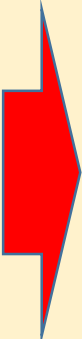
- **学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年4～6学級）**  
1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進

- **望ましい学校規模への再編整備の推進**  
同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進  
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

## 再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

### 6つの学校群



進学指導拠点校  
進学指導重点校  
キャリア指導推進校  
職業教育推進校  
地域協働推進校  
定時制・通信制高校

# 小規模校のメリット・デメリット

## 【メリット】

- 学校がある地域の生徒が、負担なく通学できる。
- 小規模校ならではの、きめ細かな指導が可能である。

## 【デメリット】

- 生徒どうしが、切磋琢磨しながら社会性や向上心を育むことが難しい。
- 学級数減に伴う教職員数の減少により、多様な科目選択や部活動など学校の教育活動が制限される。

## 再編整備（統合）による効果

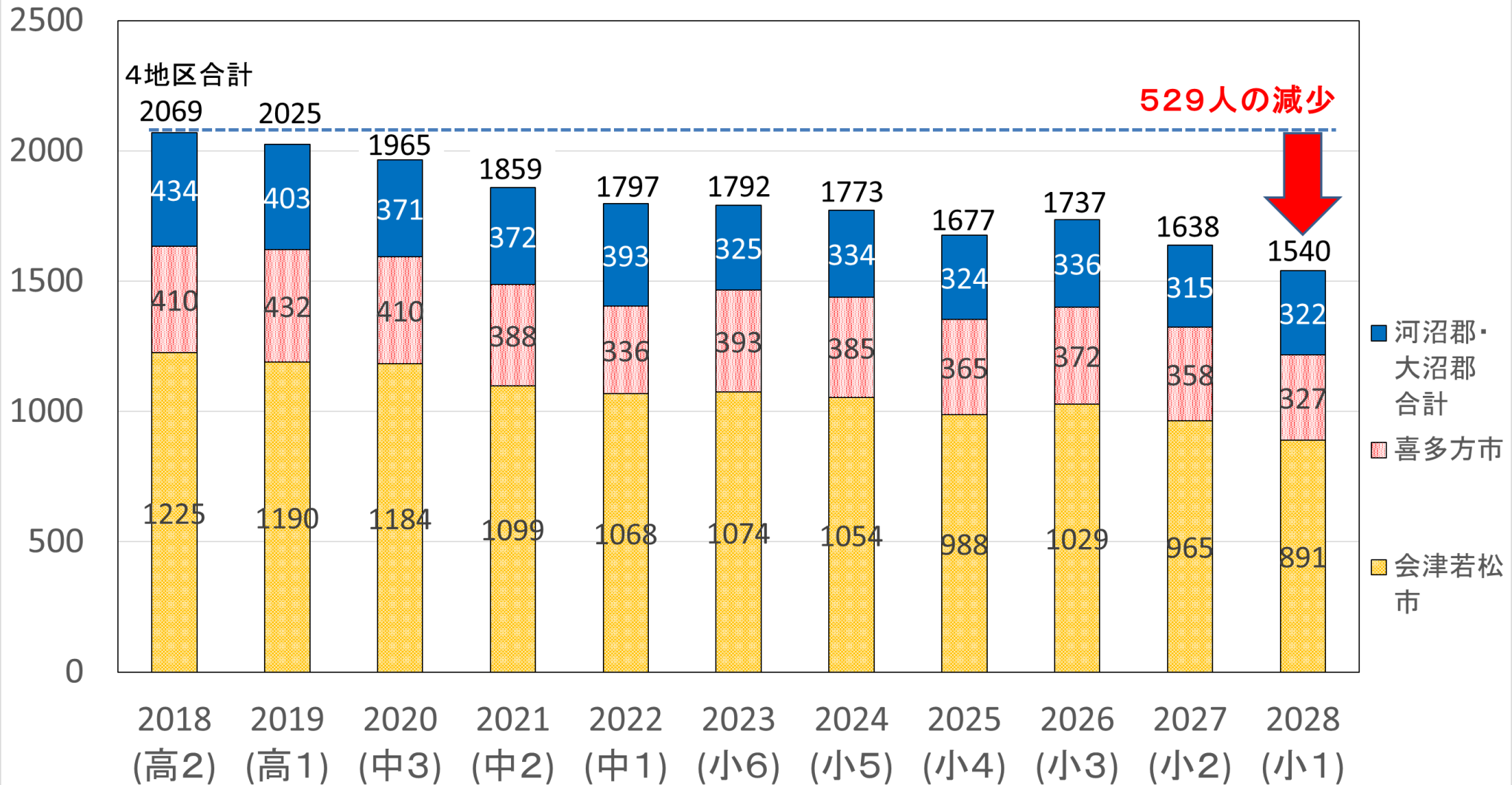
- 一定の集団規模を確保した望ましい学校規模の中で、生徒どうしが切磋琢磨しながら社会性を養い、人間性を育むとともに探究的な学びや他学科との学びの連携などの新たな取組をとおしてより深い学びが実践できる。
- 望ましい学校規模とすることによって、教員数が確保され、多様な選択科目や部活動からの選択が可能となる。

Ⅱ

## 大沼高校・坂下高校の現在の状況

# 7 地域の少子化（中学校卒業見込者数の減少）

河沼郡・大沼郡・会津若松市・喜多方市の中学校卒業見込者数の推移



## 8 学校の沿革概要等

### 大沼高校

- 沿革（創立98周年）
  - ・ 大正10年4月 大沼実業補習学校開設
  - ・ 昭和10年7月 大沼実業学校となる
  - ・ 昭和22年4月 福島県立大沼農学校となる
  - ・ 昭和23年4月 福島県立大沼高等学校となる  
(普通科・農業科・女子別科)  
定時制課程併設
  - ・ 平成23年9月 創立90周年記念式典挙行

○ 設置学科（令和元年度現在）  
全日制 普通科 1年生2学級，  
2・3年生3学級 計8学級

○ 敷地面積 **48,760m<sup>2</sup>**  
(建物敷地14,945m<sup>2</sup> + 運動場等33,815m<sup>2</sup>)

### 坂下高校

- 沿革（創立70周年）
  - ・ 昭和24年4月 福島県立会津農業高等学校に  
通常課程普通科を設置
  - ・ 昭和29年4月 福島県立会津農業高等学校より  
通常課程普通科を分離し  
福島県立坂下高等学校として開校
  - ・ 平成30年10月 創立70周年記念式典挙行

○ 設置学科（令和元年度現在）  
全日制 普通科 1学年2学級 計6学級

○ 敷地面積 **34,309m<sup>2</sup>**  
(建物敷地7,801m<sup>2</sup> + 運動場等26,508m<sup>2</sup>)

# 9 進路状況（過去3年間）

学校要覧より

学校名	大沼高校			坂下高校		
進路先 \ 年度	30	29	28	30	29	28
大 学	10	16	23	3	5	4
短期大学	7	14	14	3	3	7
専門学校	42	45	39	11	10	15
就 職	38	38	35	23	29	33
そ の 他	5	0	2	2	4	2
合 計	102	113	113	42	51	61



# 10 部活動

## 大沼高校

### ○ 文化部

吹奏楽      美術      演劇

### ○ 運動部

陸上競技   野球   ソフトテニス  
男女バスケットボール   卓球  
男女バレーボール   バドミントン  
サッカー   弓道   レスリング

## 坂下高校

### ○ 文化部

合唱      美術      茶華道

### ○ 運動部

陸上競技   野球   テニス  
男子バスケットボール   柔道  
女子バレーボール   バドミントン  
サッカー

# 11 入学状況

## 大沼高校

年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
募集定員	160		120											80
入学者数	157	160	120	119	120	114	113	90	120	120	118	102	83	71
充足率 (%)	98.1	100.0	100.0	99.2	100.0	95.0	94.2	75.0	100.0	100.0	98.3	85.0	69.2	88.8

## 坂下高校

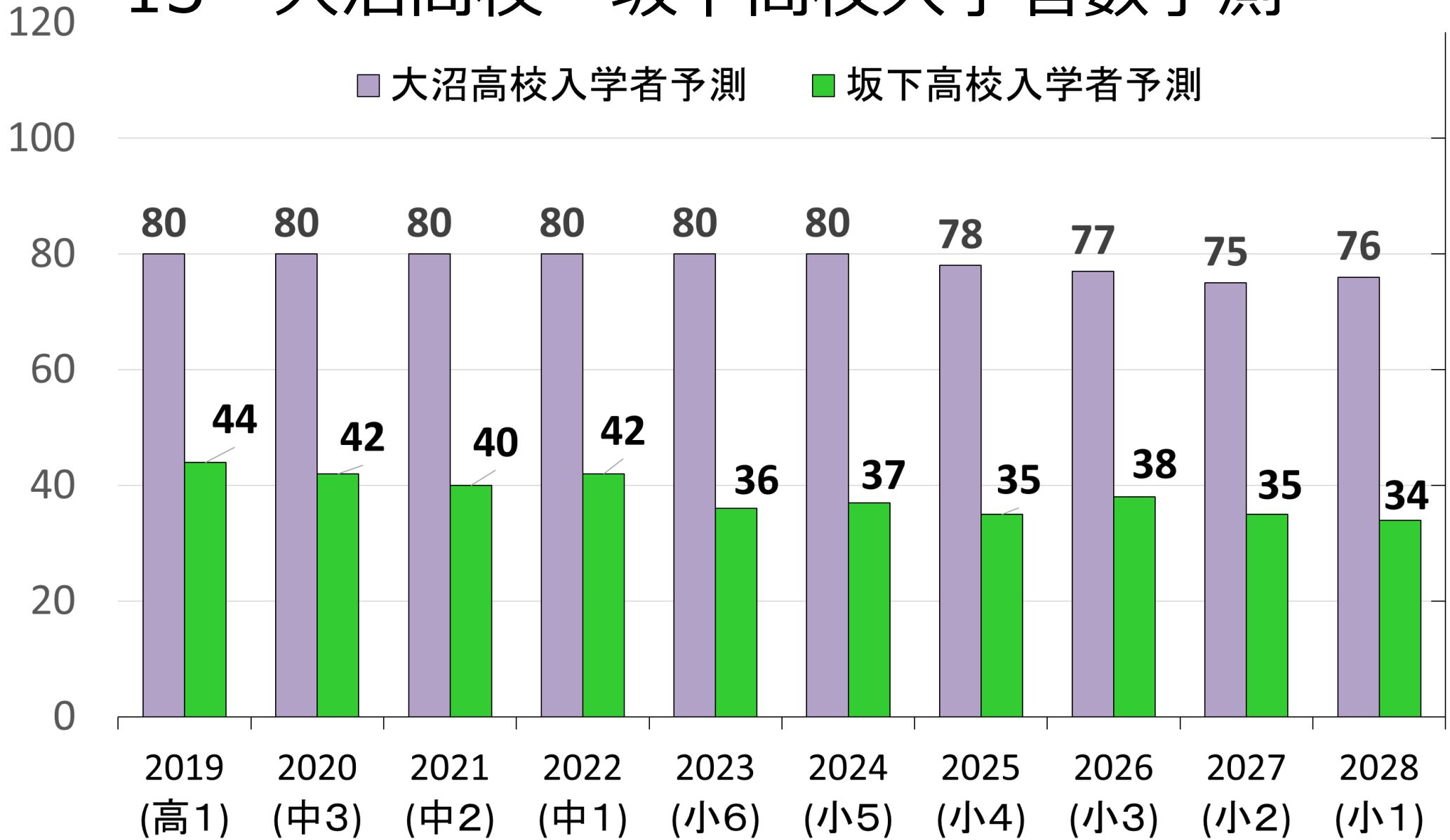
年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
募集定員	120			80										
入学者数	115	117	115	80	79	73	50	55	71	55	55	41	37	49
充足率 (%)	95.8	97.5	95.8	100.0	98.8	91.3	62.5	68.8	88.8	68.8	68.8	51.3	46.3	61.3

## 12 平成30年度 河沼郡・大沼郡及び近郊地域の中学校卒業者の高校進学先

	中学校名	卒業者数	進学者数	大沼	坂下	会津	葵	会津学鳳	若松商業	会津工業	喜多方	喜多方東	喜多方桐桜	耶麻農業	会津農林
河沼郡	坂下	165	155	1	17	20	11	8	12	5	7	0	19	3	31
	湯川	34	34	0	1	5	8	1	3	1	1	1	4	1	0
	柳津	17	15	2	2	1	1	2	1	1	0	0	1	0	1
	西山	4	4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	河沼郡計	220	208	4	21	27	20	11	16	7	8	1	24	4	33
大沼郡	高田	112	105	31	1	7	15	8	10	15	0	0	0	0	7
	本郷	44	43	4	0	8	9	4	4	4	0	0	0	0	2
	新鶴	34	34	4	1	5	3	1	1	5	1	0	0	0	4
	三島	8	8	1	2	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0
	大沼郡計	198	190	40	4	20	28	15	16	24	1	0	0	0	13
会津若松市		1235	1171	39	10	140	144	178	108	159	3	5	32	13	40
喜多方市		410	383	0	1	28	14	13	10	16	107	31	97	21	4
計		2063	1952	83	36	215	206	217	150	206	119	37	153	38	90
進学者に対する割合(%)				4.3	1.8	11.0	10.6	11.1	7.7	10.6	6.1	1.9	7.8	1.9	4.6

大沼高校・坂下高校入学予測者数  
(人)

# 13 大沼高校・坂下高校入学者数予測



Ⅲ

今後の再編整備について

# 14 統合校の方向性

**大 沼 高 校**

○ 普通科(定員 80名 : 2学級)

**坂 下 高 校**

○ 普通科(定員 80名 : 2学級)

**大沼・坂下統合校（仮）**

2022年4月開校予定

**普通科 4学級（定員160名） 場所：大沼高校**

## 統合校のイメージ

### キャリア指導推進校

地域を支える核  
となる人材を育成

生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育活動の充実により、  
大学進学から就職までの進路希望を実現するために  
「キャリア指導推進校」に指定（県内21校）

### 個に応じた丁寧な学習指導とキャリア教育

- 大沼と坂下の取組を継承した個に応じた丁寧な学習指導の実践と、  
生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育

### ICT機器の活用とアクティブ・ラーニング

- ICT機器を活用したアクティブ・ラーニングの導入等による、  
確かな学力と学ぶ意欲の養成

### 学校を核とした地域づくり

- 地域の伝統行事やイベント等への積極的な関わりにより、  
社会性を育みながら、学校を核とした地域づくりを推進

# 15 統合校の特色化

## 検討する統合校の特色化の例

### 地域との連携

地域の企業や関係機関との連携  
地域の伝統行事等との関わり

個に応じた丁寧な  
学習指導や進路指導

主体的・対話的で  
深い学びの実現

I C T 機器を活用  
した魅力ある授業

観光や福祉分野などの  
地域課題探究型学習



# 16 今後の予定

## 会議等のスケジュール

**第2回改革懇談会**

年度内

**第3回以降の改革懇談会**

必要に応じて開催

## 今後必要となる組織

改革懇談会でいただいた御意見を具現化するための組織

- **教育内容検討委員会**（両校の教職員で構成される検討委員会）
- **ワーキンググループ**（各校の校内検討委員会）